

# 学校になじめない子を支援



おやつのパン作りをする子どもと、見守る衛藤吉則さん＝北九州市八幡東区

## 広島大教授、郷里の八幡東で施設運営

「学校教育になじめない子どもたちの力になりたい」と、広島大学教授の衛藤吉則さんが郷里の北九州市八幡東区で、発達に障害のある子どもたちの支援施設を運営している。空き家を活用しているが駐車場が狭く、利用者を制限している。広い駐車場を確保してより多くの子どもを支援したいと、整備費をクラウドファンディングで募っている。

衛藤さんは広島大学院で学校教育になじめない子らの文学研究科で、芸術を通しての力になりたいという思いで一人ひとりの個性を見守る。長年持ち続けてきた「いだし教育理論」シユタイナー教育」を研究している。昨年4月、実家の隣の空き家に「シユタイナーハウス・モモ」を、10月には「モンテッソーリ・子どもや、心と体に障害があるな

## 受け入れ増へ 駐車場整備資金募る

の家」を開所。市から未就学児対象の児童発達支援事業と小学校入学後の放課後等デイサービス事業を行う障害児通所支援事業所の指定を受けた。週の前半を大学での研究と学生への指導に充て、後半は北九州市で施設に通う子どもたちと向き合う日々だ。

施設には2〜11歳の不登校や自閉症、ダウン症の子どもたち8人が通う。「人には感覚を通して自己を育てる能力が備わっている」という教育理論「モンテッソーリ教育」も採用。それぞれの子どもたちの状態を見ながら、シユタイナー教育と組み合わせた体系的な療育を施している。

小学2年の男児(7)は、長い入院生活と不登校を経て衛藤さんの施設に通い始めた。当初は、ひらがなを書くこともできなかった。

習い始める前は、拒否感を示して過呼吸になったこともあった。だが、ある時は絵を描き、ある時は体を動かすというシユタイナー教育の手法で学び、楽しみながらひらがなの書き方を覚

えていった。ほかに養蜂をしたり、土遊びをしたり。子どものイメージや感覚を大事にしながら、一人ひとりに寄り添い、その子らしさを伸ばす教育を目指している。

開所以来、保護者から多くの問い合わせを受けるが、近くに安全に利用できる広い駐車場がなく、一度に多くの子どもを受け入れることが出来ずにいる。

広く安全な駐車場を整備して、より多くの子どもを受け入れようと、広島大が研究費などを募る目的で始めたクラウドファンディングに応募し採用された。今月末まで寄付を募っている。

衛藤さんは「発達に障害があっても、子どもたちが自分らしさを大切にしながら成長していける場をさらに充実させるため、ご寄付をよろしくお願いします」と話している。

寄付はクラウドファンディングのホームページ(<https://readyfor.jp/projects/steinermontesoriacademy>)からできる。問い合わせは、衛藤さん(080・52273・4305)へ。(城真弓)